

令和7年度ネットリサーチ「男女共同参画に関する意識」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

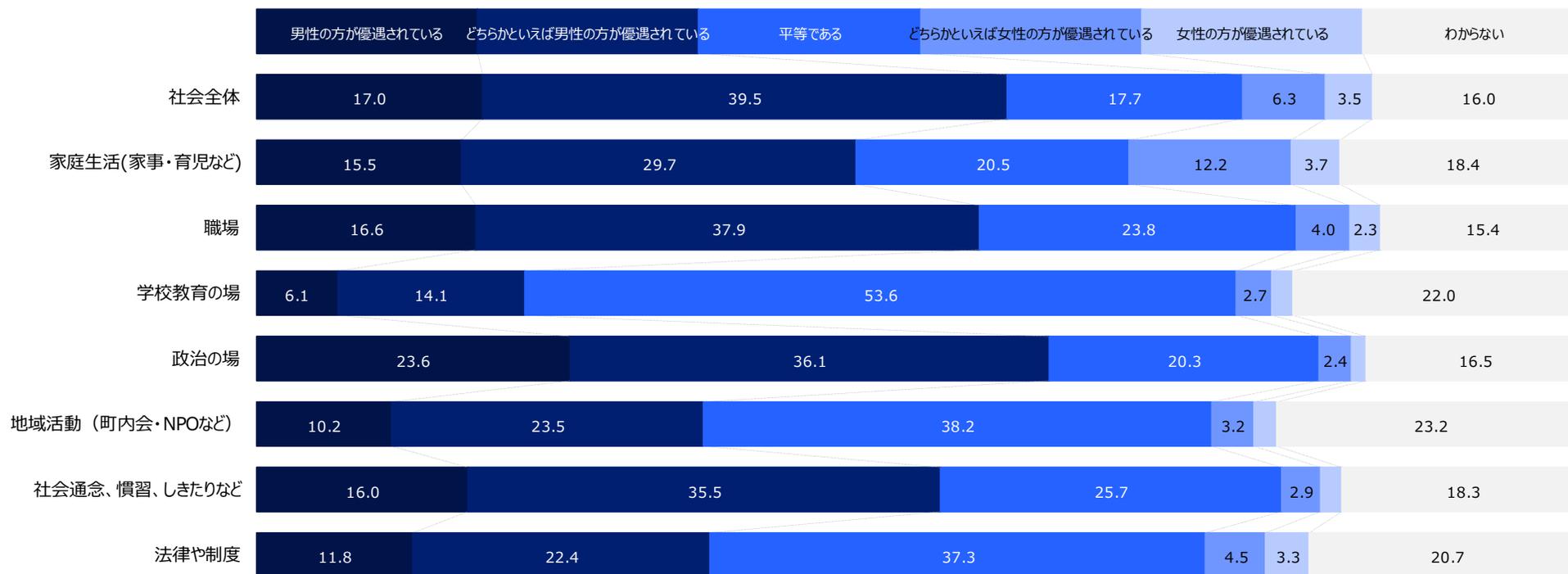
- 女性が職業をもつことに対する考え方については、「こどもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が42.6%で最も高く、「わからない」が26.2%、「こどもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が12.3%と続く。
- 男性の育児休業取得に対する課題については、「職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない」が44.7%で最も高く、「代替要員の確保が困難」が34.2%、「休業中の賃金補償」が33.2%と続く。
- 男女共同参画実現に向けた効果的な取組については、「関係する制度の制定や見直し」が37.2%で最も高く、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女が共に働きやすい就業環境の整備」が33.3%と続く。

■調査結果の概要

1 分野別の男女の地位の平等感

- ◇ 「社会全体」について、「男性の方が優遇されている（17.0%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（39.5%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が56.5%となっている。
- ◇ 「家庭生活(家事・育児など)」について、「男性の方が優遇されている（15.5%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（29.7%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が45.2%となっている。
- ◇ 「職場」について、「男性の方が優遇されている（16.6%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（37.9%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が54.5%となっている。
- ◇ 「学校教育の場」について、「平等である」が53.6%となっている。
- ◇ 「政治の場」について、「男性の方が優遇されている（23.6%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（36.1%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が59.7%となっている。
- ◇ 「地域活動(町内会・NPOなど)」について、「男性の方が優遇されている（10.2%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（23.5%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が33.7%となっている。
- ◇ 「社会通念、慣習、しきたりなど」について、「男性の方が優遇されている（16.0%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（35.5%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が51.5%となっている。
- ◇ 「法律や制度」について、「男性の方が優遇されている（11.8%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（22.4%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が34.2%となっている。

Q1.あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。



	n	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
社会全体	100.0 1000	17.0 170	39.5 395	17.7 177	6.3 63	3.5 35	16.0 160
家庭生活(家事・育児など)	100.0 1000	15.5 155	29.7 297	20.5 205	12.2 122	3.7 37	18.4 184
職場	100.0 1000	16.6 166	37.9 379	23.8 238	4.0 40	2.3 23	15.4 154
学校教育の場	100.0 1000	6.1 61	14.1 141	53.6 536	2.7 27	1.5 15	22.0 220
政治の場	100.0 1000	23.6 236	36.1 361	20.3 203	2.4 24	1.1 11	16.5 165
地域活動(町内会・NPOなど)	100.0 1000	10.2 102	23.5 235	38.2 382	3.2 32	1.7 17	23.2 232
社会通念、慣習、しきたりなど	100.0 1000	16.0 160	35.5 355	25.7 257	2.9 29	1.6 16	18.3 183
法律や制度	100.0 1000	11.8 118	22.4 224	37.3 373	4.5 45	3.3 33	20.7 207

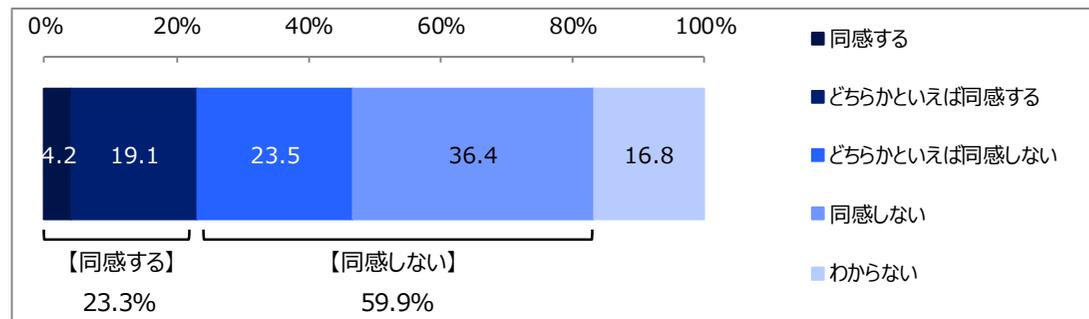
2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に対する意識

◇ 「同感する (4.2%)」、「どちらかといえば同感する (19.1%)」を合わせた【同感する】が23.3%となっている。

◇ 一方、「どちらかといえば同感しない (23.5%)」、「同感しない (36.4%)」を合わせた【同感しない】が59.9%となっている。

Q2.「男性は仕事、女性は家庭」という考えがあります。あなたはこの考えに同感しますか。次の中から自分の考えに一番近いものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
同感する	4.2	42
どちらかといえば同感する	19.1	191
どちらかといえば同感しない	23.5	235
同感しない	36.4	364
わからない	16.8	168

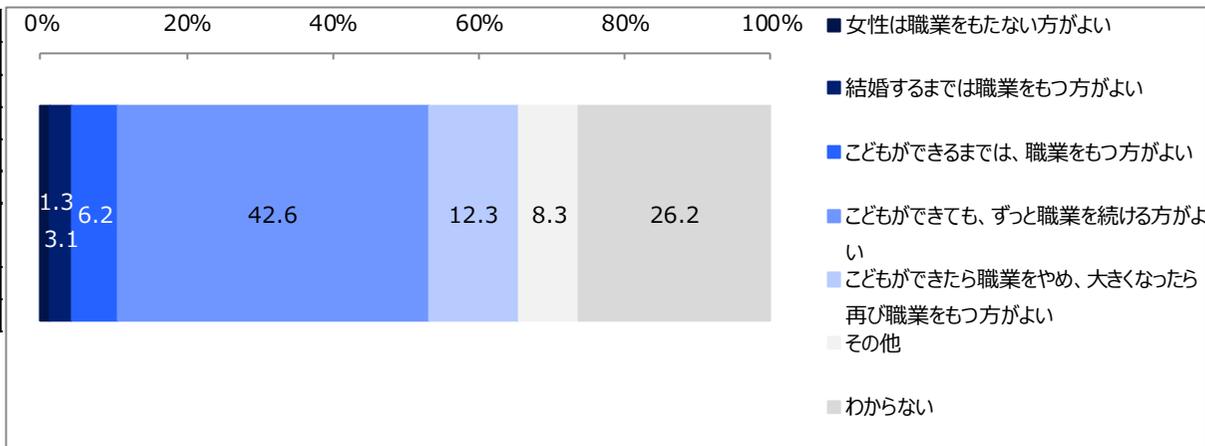


3 女性が職業をもつことに対する意識

◇ 「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が42.6%で最も高く、「わからない」が26.2%、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が12.3%と続く。

Q3. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。次の中から自分の考えに一番近いものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
女性は職業をもたない方がよい	1.3	13
結婚するまでは職業をもつ方がよい	3.1	31
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	6.2	62
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	42.6	426
子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	12.3	123
その他	8.3	83
わからない	26.2	262

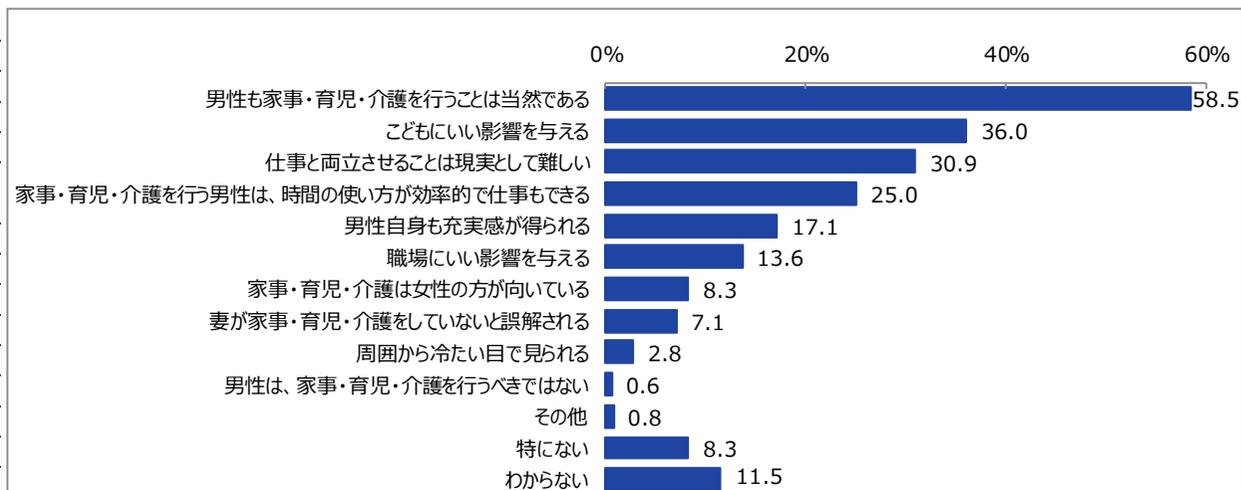


4 男性が家事・育児・介護を行うことに対するイメージ

◇ 「男性も家事・育児・介護を行うことは当然である」が58.5%で最も高く、「こどもにいい影響を与える」が36.0%、「仕事と両立させることは現実として難しい」が30.9%と続く。

Q4.あなたは、男性が家事・育児・介護を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
男性も家事・育児・介護を行うことは当然である	58.5	585
こどもにいい影響を与える	36.0	360
仕事と両立させることは現実として難しい	30.9	309
家事・育児・介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で仕事もできる	25.0	250
男性自身も充実感が得られる	17.1	171
職場にいい影響を与える	13.6	136
家事・育児・介護は女性の方が向いている	8.3	83
妻が家事・育児・介護をしていないと誤解される	7.1	71
周囲から冷たい目で見られる	2.8	28
男性は、家事・育児・介護を行うべきではない	0.6	6
その他	0.8	8
特になし	8.3	83
わからない	11.5	115



【参考】共働き世帯が1日の中で費やす時間（「令和3年社会生活基本調査結果（総務省）」より）

○育児や介護、家事など※：男性53分、女性4時間18分 ※家事、介護・看護、育児、買い物合計時間

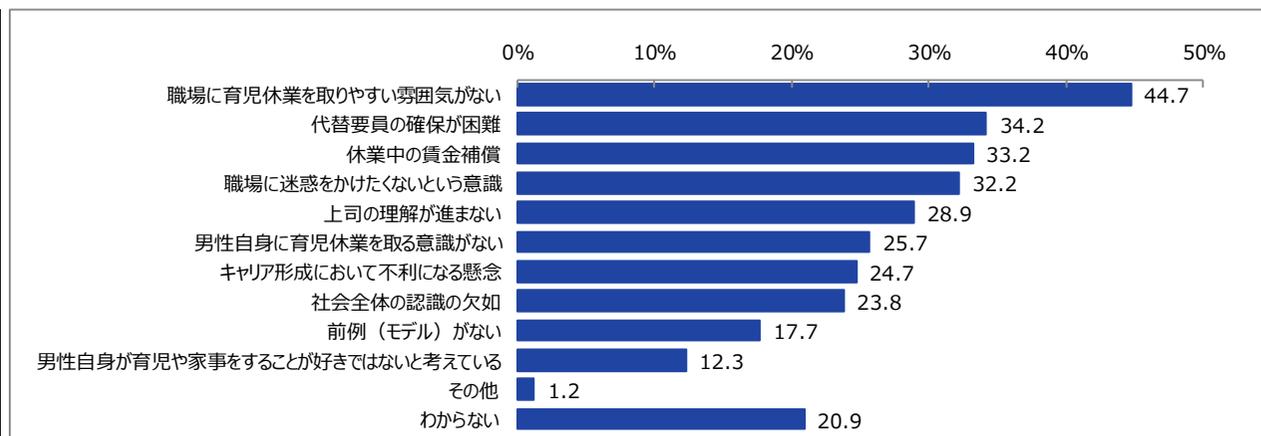
○仕事：男性6時間54分、女性4時間16分

5 男性の育児休業取得に対する課題

◇ 「職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない」が44.7%で最も高く、「代替要員の確保が困難」が34.2%、「休業中の賃金補償」が33.2%と続く。

Q5.あなたは、男性が育児休業を取得するにあたり、課題は何だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない	44.7	447
代替要員の確保が困難	34.2	342
休業中の賃金補償	33.2	332
職場に迷惑をかけたくないという意識	32.2	322
上司の理解が進まない	28.9	289
男性自身に育児休業を取る意識がない	25.7	257
キャリア形成において不利になる懸念	24.7	247
社会全体の認識の欠如	23.8	238
前例（モデル）がない	17.7	177
男性自身が育児や家事をすることが好きではないと考えている	12.3	123
その他	1.2	12
わからない	20.9	209

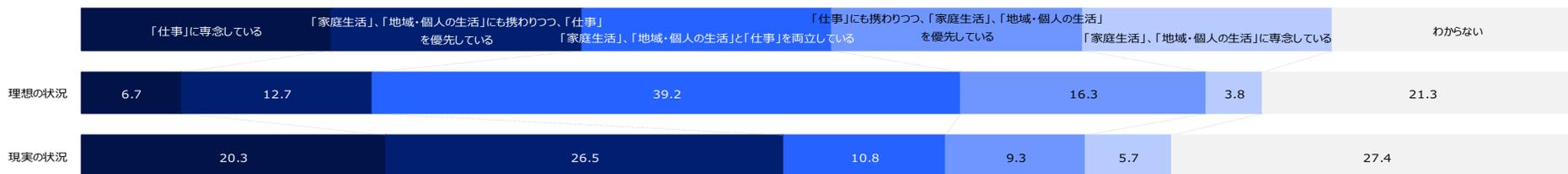


6 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況における理想と現実

◇ 理想の状況については、「『家庭生活』、『地域・個人の生活』と『仕事』を両立している」が39.2%で最も高く、「わからない」が21.3%と続く。

◇ 現実の状況については、「わからない」が27.4%で最も高く、「『家庭生活』、『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先している」が26.5%と続く。

Q6.「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況について、「理想」はどうあるべきだと思いますか。また、「現実」はどうですか。次の中から当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。



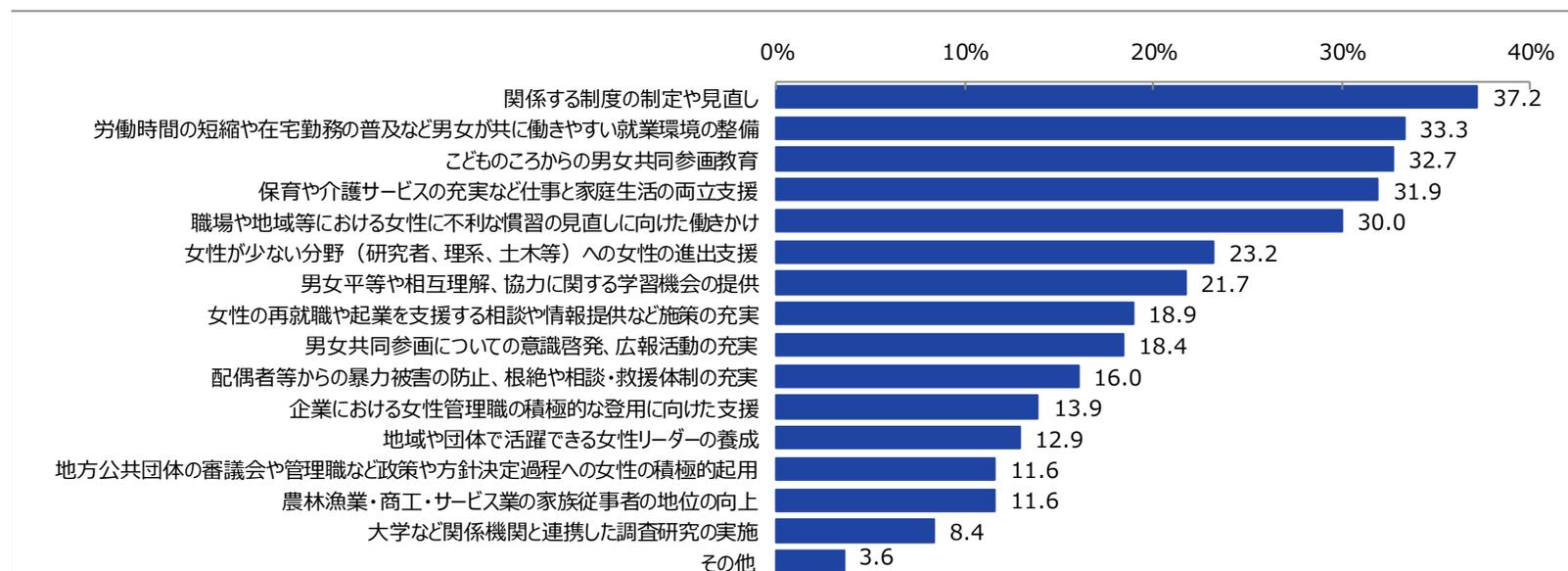
	n	「仕事」に専念している	「家庭生活」、「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している	「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」、「地域・個人の生活」を両立している	「家庭生活」、「地域・個人の生活」に専念している	わからない	
理想の状況	100.0 1000	6.7 67	12.7 127	39.2 392	16.3 163	3.8 38	21.3 213
現実の状況	100.0 1000	20.3 203	26.5 265	10.8 108	9.3 93	5.7 57	27.4 274

7 男女共同参画実現に向けた効果的な取組

◇ 「関係する制度の制定や見直し」が37.2%で最も高く、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女が共に働きやすい就業環境の整備」が33.3%と続く。

Q7.「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」です。男女共同参画社会を実現するためには、県や市町村は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
関係する制度の制定や見直し	37.2	372
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女が共に働きやすい就業環境の整備	33.3	333
こどものころからの男女共同参画教育	32.7	327
保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活の両立支援	31.9	319
職場や地域等における女性に不利な慣習の見直しに向けた働きかけ	30.0	300
女性が少ない分野（研究者、理系、土木等）への女性の進出支援	23.2	232
男女平等や相互理解、協力に関する学習機会の提供	21.7	217
女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供など施策の充実	18.9	189
男女共同参画についての意識啓発、広報活動の充実	18.4	184
配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救済体制の充実	16.0	160
企業における女性管理職の積極的な登用にに向けた支援	13.9	139
地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成	12.9	129
地方公共団体の審議会や管理職など政策や方針決定過程への女性の積極的起用	11.6	116
農林漁業・商工・サービス業の家族従事者の地位の向上	11.6	116
大学など関係機関と連携した調査研究の実施	8.4	84
その他	3.6	36



■調査の目的

茨城県では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を目指している。

男女の地位の平等感や家事・育児分担、女性活躍の推進など、男女共同参画に関する意識について調査し、今後の施策推進の参考とする。

■実施概要

・実施期間：令和8年1月16日～1月25日

・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和7年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル
回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		108	248	92	365	187	1,000
性別	男性	56	127	49	189	99	520
	女性	52	121	43	176	88	480
年代別	18～29歳	16	42	16	71	34	179
	30歳代	15	42	16	61	29	163
	40歳代	21	53	19	80	40	213
	50歳代	28	61	21	86	44	240
	60歳代	28	50	20	67	40	205

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
4. 男性18～29歳の回収件数は、「県央」「鹿行」「県南」「県西」の地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性30歳代で「県央」10サンプル、「鹿行」4サンプル、「県南」11サンプル及び「県西」7サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。